



参考：絵のお話の設定例

- 夏休み後半
- 宿題提出日は近い
- まだ宿題をしていない
- 明日は提出日
- 分かっているけど、〇〇（テレビ、ゲーム、外遊びなど）に夢中
…など、実態に合わせてお話を作ってください。

5-④

子どものやる気を引き出す言葉かけ集の作成と活用



学習するためのスイッチをONにする言葉

子どもたちが家庭で学習する気持ちになる言葉「学習するためのスイッチをONにする言葉」を募集させていただきました。ご家庭でも声かけの際に参考にしてみてください。

小学校低学年

お子さんが家庭学習をするときに、そばで見守ったり、学校で学習したことをたずねて一緒に学習したりして、学習習慣を身につけるようにしていきましょう。

具体的なほめ言葉です

- どんなふうにするのか やって見せて!
- がんばれ!
- 前よりよくできるように なったね!
- 一緒にするよ!
- 何時から始める?
- 漢字のはらいが 上手だね!
- 後で困るのはだけ かな?
- やらないといけないことは先にしよう!

小学校中学年

進んで家庭学習をするための言葉かけや家庭学習はするものという気持ちになるような言葉かけをしていきましょう。

- 宿題をしたら好きなことをしてもいいよ!
- 1, 2, 3, Go! さあ、そろそろ やろうで!
- 宿題をちゃんとやっていくと気持ちいいよ!
- みんなで、一緒にしよう!
- 宿題がなくても1日1つは勉強しよう!
- 自分から進んですると もっといいよ!
- やるべきことは しよう!
- テレビが見たかったら ○時までにはしなないと見られないよ

小学校高学年

将来について考えさせたり、家庭学習は自分のためのものだという声かけをしたりして、進んで家庭学習に取り組むようにしていきましょう。

- 困るのはお母さんじゃないからね。
- やることをしてから好きなことはしよう!
- やるべきことは 早く、後はゆっくり。
- 早く終わらせると、後が楽だよ。
- さあ、何時から始める!
- 今日も がんばってね!
- 努力は必ず 報われる。
- 将来やりたい職業のために、どんなことが必要かな?

中学生は、注意をする言葉が多くなって、やる気を起こすための言葉かけはぐっと減っているようです。中学生になるまでに、進んで家庭学習をする習慣を身につけたいものです。

出典：『子どものやる気を引き出す言葉掛け集の作成と活用 リーフレット 「学習するためのスイッチをONにする言葉」』（鳥取県教育委員会事務局 東部教育局）
<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1240019/5-4.pdf>

魔法の言葉 ～やる気を起こさせる名言集～ (保護者向け)

○この子は才能がないからとやめさせるようなことをしてはいけません。
たとえ才能がなくてもあふれる情熱があれば、破壊力や持続力が生まれてきます。

(「一生食べていける力」がつく大前家の子育て、大前研一)

○痛い目に遭わないと、人間はほんとうには変わらない。
だからこそ指導者は、ときにはあえて失敗させることも必要なのである。
(負けかたの極意、野村克也)

○60点でいいんです。 (子どもの「花」が育つとき、内藤寿七郎)

○あれこれしないで見守ることは、モノを買ってやったり、何かをしてやったりするより、ずっと難しく愛情のいることです。
(PTA 文集)

○親は、子どもに、友だちと同じである必要はないと言ってやりましょう。
人がそれぞれ違うことは大切なことだということを、子どもにぜひ教えてあげてください。

(子どもが育つ魔法の言葉、ドロシー・ロー・ノルト)

○子どもは一人一人違うのだということを頭に入れて、あわてないで信用し、子どもになんでもさせる。

失敗は多いほどいいのだから、失敗しても決して叱らない。

「やる気を育てる」にはこれ以外の方法はない。 (吉岡たすく)



家庭学習のスタンダード「子どもが伸びる家庭学習」

小学校入学に当たって



子どもの「学ぶ力」を育む上で、小学校低学年の時期に、家庭においても学ぶ意欲を高め、家庭学習の習慣を身に付けておくことが大切です。

低学年のうち、一人で学習の仕方などを決めることは難しく、家庭のサポートが欠かせません。子どもの学習の様子を見守り、困っていることはないかを声掛けしながら、学習に主体的に取り組む力を身に付けられるようにしましょう。また、学年が上がるにつれ、宿題だけでなく自主学習に取り組めるように、学習内容や量を自分で考えるなど、子どもが学び方を決める場面を増やしていきましょう。

Point1 子どもとの会話やふれあいを大切にしましょう!

普段の会話やふれあいなど、一緒に過ごす時間が子どもの心の安定につながり、学ぶ意欲を育てます。学校の様子や子どもが興味を持っていることなどを聞いてみましょう。

学校でどんなことをしたの?



好きなことは?

Point2 学習環境を整えましょう!

学習に集中できる環境づくりを子どもと一緒にを行い、子どもが学び方を自分で決められるようにサポートしましょう。

○場所…学習する場所を決める。

学習に必要なものを準備し、必要ないものは取り除く。

○時間…学習を始める時間と学習量のめやす(時間やページ数等)を決める。

漢字ドリルの次は、何をしようかな?



Point3 子ども学習の様子を見守り、頑張りを認めましょう!

子どもに、家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、最初が肝心です。一人で学習できるようになるまでは、学習したプリントやノートを見るなどして学習の様子を把握しましょう。また、子どもの頑張りを認めたり、励ましたりする声掛けをしましょう。

粘り強く取り組む姿勢を支える声掛けが大切です。



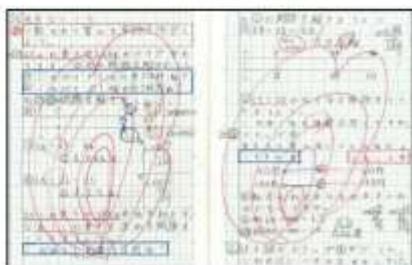
ステップアップ

宿題 + 自主学習

学年が上がると

「まず宿題。次に自主学習。」といった家庭学習の習慣を身に付けさせましょう。授業の予習や復習(例1)をしたり、興味があることを調べ(例2)たりするなど、自分で学習内容を考えて取り組むことで、学ぶ意欲が高まります。

自主学習の例1



「めあて」「振り返り」が書かれた算数の復習

自主学習の例2



昆虫についてのレポート



中学校入学に当たって

子どもの「学ぶ力」を育む上で、自分の夢や目標の実現に向け、今どんな力を身に付けておきたいのか、そのためにどのような学習をしておくか、子ども自身に考えさせることが大切です。

中学校入学は環境が大きく変わることもあり、子どもは期待と共に、不安や戸惑いを感じるなど、気持ちが揺れ動きやすくなります。また、口は出してほしくないけれど、自分のことを見てほしいという思春期ならではの関わり方の難しさがあるかもしれませんが、自立した大人への成長段階と捉え、温かく見守り支えていきましょう。

Point1 規則正しい生活習慣をサポートしましょう!

メディアやスマホ等の視聴時間が増え、睡眠時間が十分でないと、集中力に欠け、学校生活に影響を与えることがあります。学ぶ意欲の基本は、規則正しい生活習慣にあります。安心して学習に向かえる環境づくりをサポートしましょう。

スマホ等の置き場所を決めておくといいいね。



Point2 計画的に学習を進める習慣を身に付けさせましょう!

中学校では、教科ごとに違う先生が担当したり、学習内容の増加に伴い、授業の進度が速くなったりするなど、小学校から大きな変化があります。また、宿題についても、日々の課題に加え、週末課題や定期考査前の課題など、提出期限が決められているものもあります。中学校生活を軌道に乗せる早い段階に、優先順位を自分で決め計画的に学習を進める習慣を身に付けられるような声掛けをしましょう。

Point3 将来の夢や進路を見据えた学習ができるよう応援しましょう!

子どもは3年間の中学校生活を通して、将来の夢や目標、卒業後の自分の進路について自分と向き合います。将来の夢や目標を持ち、進路が定まると、学ぶ理由が明確になり、計画を立てて学習を進めやすくなります。

好きなことや興味を持っていることなどについて、子どもの思いや考えを聞くなどの機会を持ち、一緒に考えたり、子どもの学習の様子を見守り、認めたり励ましたりしましょう。

家族と一緒に書店に出掛けたら、進路の話題になって、相談できたよ。



ステップアップ

自分で学習を調整する

自分で課題を解決できるよう見守り、必要に応じて声掛けをしましょう。

計画通りに学習を進められなかったときは、休日や定期考査などの機会に学習内容や方法を見直すなど、自分で調整しながら学習に取り組むことで、意欲が高まり「学ぶ力」が育まれます。

学習計画を立てる

△日までの課題が進んでいないな。今日から、毎日2ページずつ進めていこう。



英語が不安だな。寝る前の10分間で、予習として、次の授業に出てくる単語を暗記しよう。

学習内容や方法を見直す

次の定期考査では、10点アップしたいな。休日の学習時間をあと〇分増やそう。



単元テストで関数がよく分かっていなかったから、自主学習として、関数の復習をやろう。

出典：『家庭学習のスタンダード』（岡山県教育委員会/令和5年3月）

<https://www.pref.okayama.jp/uploaded/attachment/341251.pdf>